

おすすめ



図書室だより Vol.54



いつも、文化の森てんえい「図書室」をご利用いただきありがとうございます。

お知らせ

～読み聞かせ会～

- ◆場所:文化の森てんえい多目的ホール
- ◆日時:11月29日(日) 10時30分～



【森の美術館】



ホルンを吹いています



デッサンをする私



チャンスをつくれ



ディフェンス



フォアハンド



オーバーヘッド



スマッシュ



【I・Uさんおすすめ】 『くまのパディントン』

マイケル・ボンド作 ペギー・フォートナム画 松岡享子訳 福音館書店

おんぼろ帽子と青いダッフルコート、古いスーツケースがトレードマークのロンドン在住『くまのパディントン』をご紹介します。彼はペルーから救命ボートのなかに隠れて、イギリスにやって来ました。その首に、『どうぞ、このくまのめんどろをみてやってください。おたのみします』と、書かれた札をつるして。そんなくまを放っておけなかったブラウン夫妻が、家族の一員として迎えてくれます。彼の大好物は、ママレード。いつも、前足のつけようがない騒ぎを引き起こします。でも、ビックリの運の良さで、本人も知らないうちに丸く収まっているのです。クスッと笑えて少し泣ける、愛すべきくまのお話を、皆さんも読んでみませんか。



【K・Sさんおすすめ】 『少年と犬』 馳星周 文藝春秋

この物語の主人公は、野良犬の「多聞」。多聞は、東日本大震災の後旅に出ます。出発地は岩手県。目的地は南方。多聞は、シェパードと和犬のミックスの様な外見をし自信に満ちた眼差しは出会う人を魅了し、人の心を理解し寄り添い導いてくれます。だから、多聞の思いも通じて、様々な飼い主達を経ながら旅を続ける事が出来ました。その飼い主達との物語も、それぞれ考えさせられる重たいものがありました。何度も危険な目にあいなながらも、南方へ向かう目的は何なんでしょうか。それほど強く惹かれる何かとは。こんな犬に出会えたら、一緒にいられたら良いなと思ひながら読みました。犬を飼っている人は、犬への思いが更なる強くなる本だと思います。表紙の犬もステキです。



【新着図書のお知らせ】

■ 文庫・一般・エッセイ・実用書 ■

『ビブリア古書堂の事件手帖』
『砂 上』
『カレーライス』
『疑惑』
『点と線』
『冬山の掟』
『聖職の碑』
『鷲ヶ峰物語』
『わるいうさぎ』
『あきない世傳』
『ふたりの老女』
『自分ひとりの部屋』
『類』
『幽霊終着駅』
『ことことこーこ』
『くらやみガールズトーク』
『えにし屋春秋』
『逆ソクラテス』
『そこにはいない男たちについて』
『うちの父が運転をやめません』
『家族じまい』
『太陽はひとりぼっち』
『きらきら眼鏡』
『失恋バスは謎だらけ』
『雨上がりの川』
『逃亡小説集』
『60分でわかる カミュのペスト』
『育ちがいい人だけが知っていること』

三上延
桜木紫乃
重松清
松本清張
松本清張
新田次郎
新田次郎
新田次郎
中島さなえ
高田郁
ヴェルマ・ウォーリス
ヴァージニア・ウルフ
朝井まかて
赤川次郎
阿川佐和子
朱野帰子
あさのあつこ
伊坂幸太郎
井上荒野
垣谷美雨
桜木紫乃
鈴木るりか
森沢明夫
森沢明夫
森沢明夫
吉田修一
大竹稽
諏内えみ

■ 文庫・一般・エッセイ・実用書 ■

『基礎からわかるはじめての陶芸』 学研
『きせかえ折り紙ドール』 いしばしなおこ
『犬連れ災害対策マニュアル』
『四季の宿根草で庭づくり』 荻原範夫
『おはなしおばさんのおはなし春夏秋冬』 藤田浩子



■ えほん・児童書 ■

『アンジュール・ある犬の物語』 ガブリエル・バンサン
『あなたのことがだーいすき』 ヒド・ファン・ヘネヒテン
『はなくそ』 アラン・メッツ
『ぼくは犬や』 ペク・ヒナ
『子どもの本の世界を変えたニューベリーの物語』 ミッシェル・マーケル
『ふしぎ駄菓子屋銭天堂』 廣嶋玲子



おすすめ本を書いてみませんか!

対象は文化の森でんえい『図書室』にある本です。
投稿文字数は200文字程度
掲載者にはお礼として**記念品**を贈呈致します。
皆様のご応募、お待ちしております。

